

アラビア語の曜日

聖書の第七日目＝安息日＝土曜日である

アラビア語の曜日は数詞を元に作られていて、日曜から木曜日までは数字の1～5と同じ語根から、また金曜日と土曜日は数詞ではなく、意味が元になっており、金曜日はモスクに集まる日なので動詞 jamaʿ-a (ya-jmaʿ)「集まる」と同じ語根からできている。また、土曜日はユダヤ教の安息日「シャバト」を語源としてしています。

曜日	アラビア語の曜日	読み方	元の意味
日曜日	الأحد	アルアハドゥ	第一の日
月曜日	الاثنين	アリスナイン	第二の日
火曜日	الثلاثاء	アッスラサー	第三の日
水曜日	الأربعاء	アルアルビアー	第四の日
木曜日	الخميس	アルハミース	第五の日
金曜日	الجمعة	アルジュムア	集まる日(集団礼拝日)
土曜日	السبت	アッサブトゥ	安息日

※アラブ世界の休日は金曜日と土曜日である。

【参考】アラビア語

アラビア語は、ヘブライ語と同じ言語系統であるアフロ・アジア語族のセム語派に属し、世界で多くの国と地域で使用されている言語である。「アラビア語」は、もともとアラビア半島で話されていたが、北アフリカやイラク、シリア方面まで広がり、主に西アジアや北アフリカのアラブ世界ーアラブ首長国連邦、アルジェリア、イエメン、イスラエル、イラク、イラン、エジプト、パレスチナ（ガザ地区・ヨルダン川西岸地区）、バーレーン、モロッコ、ヨルダン、リビア等ーで話されている。

【参考】ヘブライ語

アフロ・アジア語族のセム語派に属する北西セム諸語の一つで、言語系統はアラビア語と同じである。古代にイスラエルに住んでいたヘブライ人（イスラエルとその占領地など、ユダヤ人およびサマリア人）が母語として用いていた言語古代ヘブライ語（または聖書ヘブライ語）は西暦 200 年頃に口語（日常的な生活の中での会話で用いられる言葉遣い）として滅亡し、その後は典礼言語等として使われてきた。

ミシュナー・ヘブライ語は 5 世紀までには話し言葉として使用されなくなったが、ユダヤ教のヘブライ語聖書の典礼言語としては使用され続けた。

現在イスラエル国で話される現代ヘブライ語は、約 1800 年以上の断絶を経て近代ヨーロッパで復興された言語である。

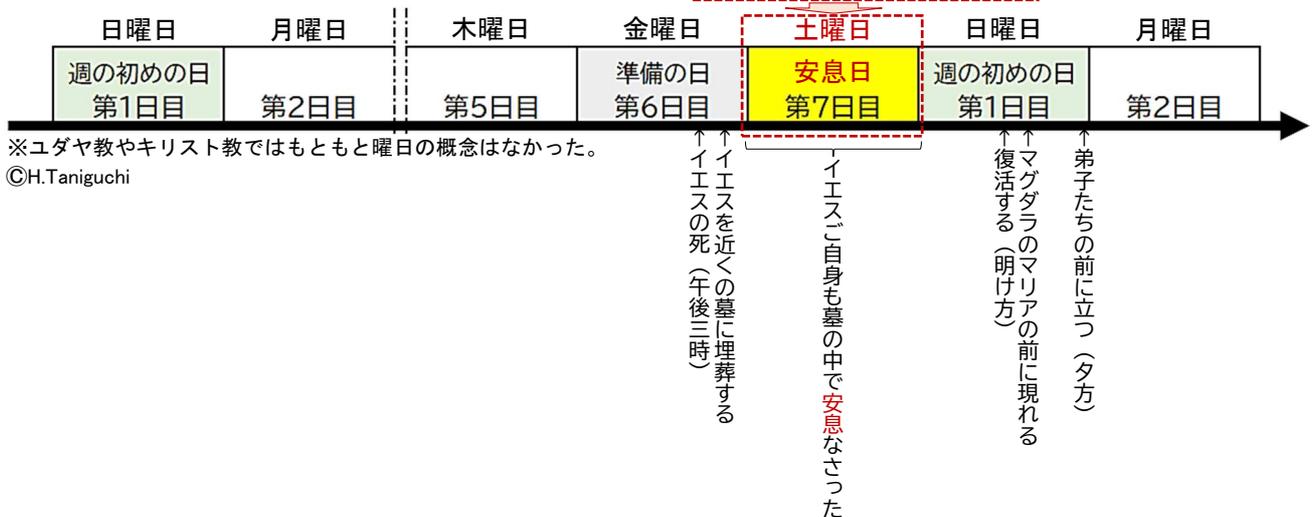
参考：東京外国語大学 フスハー(正則語) > 文法モジュール、あびーのアラビア語 他

【参考】聖書にある「第一の日」～「第七の日」(一部)

K	創世記	1:5 光を昼と呼び、闇を夜と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第一の日である。
K	創世記	1:8 神は天空を天と呼ばれた。夕べがあり、朝があった。第二の日である。
K	創世記	1:13 夕べがあり、朝があった。第三の日である。
K	創世記	1:19 夕べがあり、朝があった。第四の日である。
K	創世記	1:23 夕べがあり、朝があった。第五の日である。
K	創世記	1:31 神はお造りになったすべてのものを御覧になった。見よ、それは極めて良かった。夕べがあり、朝があった。第六の日である。
K	創世記	2:2 第七の日に、神は御自分の仕事を完成され、第七の日に、神は御自分の仕事を離れ、安息なされた。
K	創世記	2:3 この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なされたので、第七の日を神は祝福し、聖別された。

【参考】ユダヤ教(キリスト教)では、『第七日目＝安息日＝土曜日』である

ユダヤ教(キリスト教)における曜日の順序(→第1日目＝日曜日、第2日目＝月曜日、第3日目＝火曜日・・・第7日目＝土曜日)を考慮すると、**土曜日＝安息日＝第7日目**となります。



【参考】「準備の日」「安息日」「週の初めの日」は連続している

既に夕方になった。その日は準備の日、すなわち安息日の前日であったので、アリマタヤ出身で身分の高い議員ヨセフが来て、勇気を出してピラトのところへ行き、イエスの遺体を渡してくれるようにお願いした(マルコによる福音書 15: 42～43a)。

さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方に、マグダラのマリアともう一人のマリアが、墓を見に行った(マタイによる福音書 28: 1)。

【参考】日曜とは

- ・ 広辞苑：週の第一日。週の最終日とする考え方もある。
- ・ 明鏡国語辞典：週の第一日。土曜の次の日。
- ・ 角川類語新辞典：週の第一日。